## 平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」 オリンピック・パラリンピック教育推進校

## 事業実施報告書

## 学校名【 横浜市立 一本松小学校 】

, <del>, , , , , , , , , , , , , , , , , , </del>	
1実践テーマ	
	【スポーツを通じたインクルーシブな社会(共生社会)の構築】
	【スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成】
2実施対象者	①各委員会活動 計114名
	②6年1組 総合的な学習の時間 28名
	③5年1組 総合的な学習の時間 28名
	④4~6年生 総合的な学習の時間 165名
	⑤全校児童 行事・体力向上活動 296名
3展開の形式	(1) 学校における活動
	① 〇委員会活動
	オリ・パラに対する興味・関心向上のための取組
	○総合的な学習の時間
	オリ・パラに対する興味・関心向上のための取組
	② 運動会 聖火リレー
	③ 体力向上活動 長縄大会、マラソンタイム、スポーツタイム
	(2) 地域における活動 ①第4地区みんなのまつり参加
4 目 標	オリンピック・パラリンピック競技の関わりを通して、豊かなスポーツラ
(ねらい)	イフの実現に向けた基礎を育成、多様性を認め、持続可能な社会の実現に
	向けた態度を育成する。
	①体力向上の推進 ②共生社会の構築
	③オリ・パラの意義や歴史に関する学び ④地域との連携
5 取組内容	①体力向上の推進
	○長縄大会の実施
	5月、10月、2月に長縄大会で各クラス3分間の記録に挑戦した。   高学年、中学年、低学年でそれぞれ順位を決め、1位は金メダル、2位は
	闘チボ、中チボ、脳チザくとれてれば風でを次が、「風は虚べらが、と風は   銀メダル、3位は銅メダルを渡し、表彰をした。
	○一本松スポーツタイムの実施(運動委員会による活動)
	オリンピックの競技であるやり投げをもとに、ヴォーテックフットボール
	使った競技体験を行った。
	②共生社会の構築
	○トップアスリート (加藤弘選手) との交流パラリンピックや自身の競技に   関する講演を受けた。
	関9 る調度を受けた。   〇総合的な学習の時間
	<ul><li>横浜ラポールによる講義を受けた。</li></ul>
	<ul><li>・視覚障害スポーツについての講義を受けた。</li></ul>
	③オリ・パラの意義や歴史に関する学び
1	
	〇総合的な学習の時間での学びを掲示 歴史や年表、種目を掲示したり、ポスターの作成を行った。

○運動会での聖火リレーの実施 聖火リレーを行うことで、オリ・パラへの関心を 高めた。 ○マラソンタイムの実施 マラソンカードにこれまでのオリンピックの開催 地を記載した。 〇フラワーロードの実施(自然動物ふれあい委員による活動) フラワーロードにオリンピックカラーの花を使用 した。 〇オリ・パラクイズの実施 (集会委員、情報委員による活動) お昼の放送や〇×クイズ集会でクイズの実施した。 ○図書室のオリ・パラコーナーの作成(図書委員に よる活動) オリ・パラに関する図書コーナーを設置したり、ク イズを掲示したりした。 ④地域との連携 ○横浜市体育協会によるボッチャ体験 普段いきいきキッズ (月1回実施) で関わりのある方にボッチャについて 教えてもらうことができた。 ○第4地区みんなのまつりへの参加 地域で開催されるお祭りで、ボッチャの体験会を実施した。 ○幼稚園や敬老会、近隣の小学校との交流 ボッチャを地域の人たちと一緒に体験した。 〇子どもたちが楽しみながらスポーツに取り組むことができた。 主な成果 長縄大会やマラソンタイムで体を動かす楽しさや目標を達成できた時の喜 びを味わうことができた。 〇共生社会の構築に向けて、考える機会をもつことができた。 ・加藤弘選手やラポール横浜の方の話を聞く中で、少しの工夫でみんなが楽 しむことができることに気付いたり、支援の仕方の理解が深まったりするこ とができた。 ○オリンピック・パラリンピックへの知識・理解が深まった。 クイズや掲示を通し、楽しみながらオリ・パラについて学ぶことができた。 ○地域の方と交流する機会が増えた。 スポーツを通して楽しみながら地域の人たちや他学年との交流を行うこと ができた。 ○様々な視点でオリ・パラを意識的に取り組めるようにした。 7実践におい て工夫した点 委員会活動で取り組むことで、多様な場面・視点でオリ・パラへの意識 (事業の特色) をもつことができた。 〇オリ・パラ掲示コーナーを昇降口に設置する。 児童が毎日通る場所に設定することで、活動に関する意識を高めた。 8主な課題等 ○高学年は様々な場面で活動に参加することができたが、低学年向けのプ ログラムがあまり実施できなかった。 →低学年も様々な場面で実施していけるように、特別活動の時間をあらか じめ設定するなど、カリキュラムを設定しておくようにする。 9来年度以降 ○今年度実施した内容を継続していく。 ○地域との連携をさらに強化していく。 の実施予定 →体育協会との連携。社会福祉協議会との連携。 〇人権学習の中でも取り組めるようにしていく。